

器楽曲のソルフェージュ、および指揮法

主旨

合唱でやれるレパートリーのほかに、器楽曲のレパートリーを多く持つ人達のために、器楽曲を題材に分析や音感のトレーニングの方法を考えてみる。指揮法は、音楽に携わる人がみな、音楽を腕で表現する方法を体得すべきであるとの、考え方に基づいて、本当に基礎の初級編を考えてみる。

内容

	器楽曲のソルフェージュ	指揮法
第1回	バロック音楽から、メロディーのつかみ方、リズムの感じ方、通奏低音のための数字の読み方・演奏方法	姿勢、腕の動かし方、拍子の振り方など、指揮の基礎的な考え方について
第2回	形式について、その1；ソナタ形式とロンド形式	指揮者の勉強方法について 準備の内容と方法、指揮のテクニックの磨き方とトレーニング
第3回	形式について、その2；舞曲の様々な形、組曲のかたち	様式による指揮法のテクニックの違い、特にグレゴリオ聖歌など

第一回セミナーの曲目

「器楽曲」

作曲者	タイトル	楽譜の出典
ルイ・クーブラン	組曲 13 番より、前奏曲とクラント	
ヘンデル	水上の音楽より、 組曲 3 番（ト長調）から サラバンドとメヌエット	

「指揮法」

作曲者	タイトル	楽譜の出典
バルドシュ	ことりはいつも	わたしゃうたずき
ポーランド民謡	きれいにさいてる	わたしゃうたずき
ルーマニア民謡	くつおとならして	わたしゃうたずき
ルーマニア民謡	しずかなもりで	うたはよいものだ